

文化祭

町民俳句大会

第三回文化祭句座

十一月二日夜 於 役場樓上

風雨を門し集まる者十四名、兼題俳句五句、庶題二句、互選の結果玉樹、不二、安一路、鉄火一子地にそれ、賞品を贈らる副賞として冬装束の箱入贈物、星野乙平氏より星野工場製茶托三組御寄贈あり、句座を華やかにいささる。

當日の主な作品

秋雨に土堤の砂山脈生めり 楓葉と子は三角で山を画く 冬 雪 屋根石に溜る落葉の下に住む 漱深き額に沈む夜華の灯

雨 彼岸 枯菊を焚く非情にはあられども 長き夜を深くラヂオのセレナ

醉、木 秋深し老母の眼鏡うごかざり 辿りつく麓の古寺の柿赤し

風 越 洗ひ物コスモスよけて干てあり 出動の朝な朝なを菊手入れ

安 流 文化祭脚新らし品かざられて 誘はれて母と来て見る文化祭



海紅句座 十一月二十一日 於 亂水居 喜作

止 水 秋雨や車燈きらつく曲りつ角 菊咲くや南縁の敷居瘦せてある

秋 水 惜秋や蝶すがりあて橋る、ま、 手招けば刈田の株を渉り来る

安 一 路 銀杏落葉老人執着なき歩速 秋草を支え道標温泉指す

不 二 秋天へ布圍の匂ひ開け放つ 蕙揃るや土にのこれるその匂ひ

白 朗 散る木の葉一ひら宙に舞うて落 ちる

福 原 夏子 窓近くさくろしたる新風呂に 大鼓を聞けば良き祭なり

川 口 信夫 勢さのきびしくあれど山肌の光 れる見えて秋に來にけり

金子よしの この様に大きな月がと幼子は見 えぬわが手に輪を作らせる

町民短歌大会詠草

九月十五日

戸石 吉三 電車内手足を伸べて寝るが居り 客少ければわれも眞似たし

宮島 一夫 遊びにきたら美恵子にやむと 捕へ置きし山蜻蛉は抽出の中に 死にたり

花岡ますを 刈りながら雑話を聞き居る幼子 は鏡の中に微笑みており

火災発生



消防團秋季演習終る

十一月十八日肌寒い夜明の空に 半鐘の音が流れる。一点と三點の鐘の音……本朝は川瀬團長の下、改組後の精鋭百五十の團員が日頃練習の消防団を發揮する秋である。各分團は火の見櫓の下に屯し、命令を今かと待つ傳令により召集された各分團長は重点進行を左の如く背負った。

幹部の指揮能力 規 律 消防 活動 第一分團に発令第三号が傳令によりて齎された。 第二分團に発令第四号が傳令によりて齎された。 第三分團に発令第五号が傳令によりて齎された。 第四分團に発令第六号が傳令によりて齎された。 第五分團に発令第七号が傳令によりて齎された。

町民圍碁大会

多彩な文化祭行事の一環として行われた町民圍碁大会は四日盛大裡に終了した。當町に於ける圍碁愛好者の数は年々激増の一途を辿り、大衆娯樂としての確固たる地歩をききつ、ある事は喜びに堪えない。この趨勢を反映して大会は参加者実に二十数名を数える盛況ぶりであった。

戦後風雲録

の智略、縦横の戦い振りには何時もながら大きな教訓を受ける。宇野氏を智將とするならば謀將として富山氏を挙げなければならぬ。船六才と云う氏のどこにその深慮遠謀がひそんでいるかと思えばかり、一方渡邊、栗林、鈴木等の非風も智謀兼備と云うべく、又中野中村氏等の飛躍も注目し、陸盛を極めようとしていた。 尙、今大会の成績は次の通りである。

- 一等 富山 謙三
二等 土屋 良治
三等 宇野末太郎
四等 鈴木虎雄

少年棋士あらわる

十一月三日文化祭を記念して西永寺に於て、藝能部の町民將棋大会が四十数名の参加者を得て盛況裡に開かれた。 此の日魚町の高橋立夫(少年棋士十才)君も出場、大敵をなぎ倒し、見事や九等に入賞し、満場の賞讃を浴びた。

- 成績次の通り
一等 能登 長井 勇策
二等 能登 九山 壽美榮
三等 能登 田村 清吉
四等 諏訪ノ木 及び 澤 正光
五等 旭町 林 謙次郎
六等 一ノ丁 中村 富次郎
七等 五六ノ丁 皆澤 富市
八等 魚町 渡邊 茂
九等 高橋 立夫 (少年棋士十才)

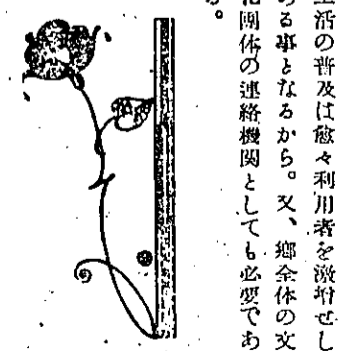
火事は 何でもない 取灰に手の跡つける心かけ

昭和二十六年十一月十八日午前七時三十分発令 本部 第五分團地区七軒車庫に於て火災発生直ちに自動消火に努められたし。 昭和二十六年十一月十八日午前九時発令 本部 第三分團地区役場二階に於て火災発生直ちに自動消火に努められたし。 中川の水利用により延焼を防止せられたし。 望見すれば白龍六本天に挑んでをり、腕用ポンプのは小さく見える。 各分團共三賑火災現場にかけつけた事になるが、此の間三時間消防小唄にある如くバット来りやサットゆく心算をなしたためである。



町民の聲

白根町が農村の中心であり、農村経済が直ちに町勢の発展と経済に重大なる影響を及ぼすのであるから、農村経済の基盤に立つ本町は、近郊農村と密接不可離の關係にある事は論を俟たない處である。 早速町民の関心も又町の獨立発展と云うよりも、一步視野を廣めて信濃川と中の川に開かれた白根町の中心としての本町の発展を考へる事が妥當である。



懸賞当選者発表

- 第一、応募者 二十一名
第二、正解者 五名
第三、當選者氏名
船江町 山田 山一
船江町 清水 修
船江町 諸原 幸雄
五六ノ丁 伊藤 和夫
五六ノ丁 吉川 久五